CASE 01｜発語・指さし・初期要求

ことばや指さしが出ず 泣いたり手を引いて訴える

復唱を強いず、遊びの中の「視線共有」と「絵カード選択」から自発語を引き出します



お子さまにこんな「困りごと・サイン」はありませんか？

- 欲しい物があると大人の手を引いて連れていく(クレーン現象)
- 思いが伝わらないと、すぐ大声で泣いたり怒ったりしてしまう
- 名前を呼んでも振り向かず、「これなあに？」と尋ねても黙る

DEVELOPMENTAL SCIENCE｜発達科学からの視点
「言わせる練習」より「伝わって嬉しい体験」が土台です

発語の前段階として「大人と同じ物を見て共感する力(共同注意)」が必要です。質問攻めをやめ、遊びの中で「伝わった！」喜びを積み重ねると自然に声が出始めます。

お子さまの現在地から始める「2つのスタート分岐」

一人ひとりのペースに合わせて段階的に進めます

■ A:指さしや視線がまだ出にくく泣いて訴える時
実物の玩具を2つ提示し、手を伸ばした方を「これだね！」と笑顔で渡す『実物2択』から伝わる安心感を育てます。

■ B:好きな玩具(電車・ブロック等)へ向かえる時
指導員が隣で同じ遊びを並走し、視線が合った瞬間に「ガタンゴトン！」「あけてだね」と短い言葉を添えて共感します。

▼ どちらのタイプも、以下の「4ステップ療育サイクル」で無理なく力を伸ばします ▼

01 つまずき



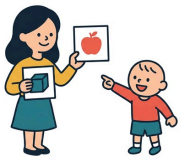
質問攻めによる緊張
「言ってみて」と求められるほど緊張し、発声が止まります。

02 共同注意



同じ物を見て指さし
見ている玩具を一緒に指さし、「大きいね！」と笑顔を共有します。

03 要求表出

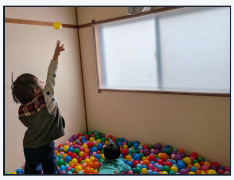


5秒待ってカード選択
先回りせず5秒待ち、絵カードや指さしに短い言葉を添えます。

04 育つ姿



指さしから二語文へ
「伝わると嬉しい！」実感が根づき、単語・二語文へ広がります。



実践① プラレール・図鑑での共同注意
「大好き！」を起点に言葉を添える
電車やパズルを「あか・あおどっち？」と2択で選び、連結時の「ガチャン！」等のリズム語彙を楽しく反復します。



実践② 絵カード・身振りでの要求表出
「あけて・ちょうだい」が叶う体験
視覚カードや身振りを併用し、泣かずに意思を伝えられた瞬間を全力で褒めて自発的な発声へつなげます。

◆ おうち・園でできる「1分関わりヒント」

欲しい物を見つめた時、すぐ渡さず『胸の前で3秒持ってニコッと待つ』と、大人の目を見たり指さし・声を出すきっかけが自然に生まれます。

◆ ご家庭・保育園・幼稚園と連携する「2つの通い方」

①【1日コース】10:00～16:00(温かい昼食・お昼寝対応)
②【園送迎並行コース】保育園・幼稚園へのお迎え送迎対応(片道30分圏内)。

ご相談窓口(平日 10:00～16:00)
058-372-6123
受給者証の申請前でもご相談可

所在地 〒504-0966 各務原市那加本町36 マナベビル3F(JR那加駅 徒歩2分)
対象 2歳～未就学児(小学校入学前)｜送迎・昼食 あり｜4言語 日・英・葡・西
メール contact@ibirite.info ｜ Web ibirite.info/児童発達支援/

LINE相談